

# 英語・米語コーパスと英語辞典における多重複合形容詞

## Multiple Compound Adjectives in British and American English Corpora and Dictionaries

西部 真由美

NISHIBU Mayumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

*Faculty of International Communication, Aichi University*

*E-mail: mnishibu@vega.aichi-u.ac.jp*

### Abstract

This paper investigates quantitative and qualitative features of multiple compound adjectives composed of more than three root morphemes which appear in *British National Corpus* and *Corpus of Contemporary American English*. It also examines how these compound words are listed and described in large-scale dictionaries; *Oxford English Dictionary* (2ed.), *Webster's New International Dictionary of English*, *Random House English-Japanese Dictionary*, and *Genius English-Japanese Dictionary*.

It turned out from this study that several specific multiple compound adjectives appeared both in American and in British English corpora, many of which represent the meaning of extremeness such as "the best of all," and "the newest." Many of the frequent multiple compound adjectives are semantically opaque and adopted as an entry or a headword, while other semantically transparent ones are less frequently listed in the dictionaries.

## 1. 多重複合形容詞とは

複合形容詞 (compound adjectives) とは、2 つ以上の語根で構成されていて、文法的にも意味的にも単独の語として機能する複合形の形容詞のことである。複合形容詞は通常名詞の前に置かれ、名詞を限定的に修飾する働きをし、その大半はハイフンによってつながれている。複合形容詞の大多数が2語根で構成されるが、わずかながらも4つ以上の語根から成るものも存在する。本稿では、4語根以上で構成される複合形容詞を多重複合形容詞 (multiple compound adjectives) と称して、先行研究が少ないこの形容詞についてコーパスと英語辞典を用いてその特徴について考察する。

## 2. 方法とデータ

本稿では、イギリス英語とアメリカ英語の大規模コーパスを用いて具体例を抽出し、その頻度や特徴を比較分析する。使用するコーパスは *British National Corpus* (BNC-BYU) と *Corpus of Contemporary American English* (COCA) で、ともに Mark Davies によってオンライン版で提供されている。用例を検索する範囲は書記言語のデータのみとし、音声言語のデータは音声を表記した転写作業の影響が考えられるため除外することにした。各コーパスの書記言語データは、BNC-BYU は約 8800 万語で、COCA は約 3 億 7 千万語だった。この 2 つのコーパスの構成の詳細を次の表 1 にまとめた。

表 1. *British National Corpus* と *Corpus of Contemporary American English*

名称	元データの年代	ジャンル	語数
<b>BNC-BYU</b>	1960-1984 (8%) 1985-1993 (92%)	<b>spoken</b> (10%) <b>written</b> (90%) 6 ジャンル <i>academic, non-academic, fiction, magazines newspapers, miscellaneous</i>	<b>spoken</b> 10,409,851 <b>written</b> 87,953,932
<b>COCA</b>	1990-2012 (年一定量)	<b>spoken</b> (20%) <b>written</b> (80%) 4 ジャンル <i>academic, fiction, magazines, newspaper</i>	<b>spoken</b> 95,385,672 <b>written</b> 368,634,584

コーパスの大きさを比較すると、COCA は BNC-BYU の 4 倍程度の語数を持ち、加えて元データは BNC-BYU では 1885-1993 年の期間が 9 割以上であるのに対して、COCA では 1990-2012 年となっていて、比較的新しい。本稿ではイギリス英語とアメリカ英語の相違に焦点を置いているが、このコーパスのサイズと年代の違いが分析結果に反映される可能性は否めないため、注意を要する。

コーパスから該当する複合形容詞を抽出するのには、両コーパスに付随するオンライン検索ツールを使用した。この検索ツールは、ハイフンを認識し、さらにワイルドカードが使用できるため、検索列を `*-*-*. [j*]` として、即座にあらゆる 4 語根以上のハイフンで繋がれた形容詞を抽出することができる。ちなみにこれらのコーパスでは、ハイフンで繋がれた複合語で名詞の前に置かれているもののほぼ全てに、形容詞の品詞タグが付けられている。

さらに、本稿の第 4 節では、出現頻度の高い多重複合形容詞が英語辞典でどのように記載されているのかを調査する。特に、辞典の見出し (entry) に採用されているということは、その項目が独立した語として容認されていることを含意する。従って、多重複合形容詞の中で、見出し語となっているものは、比較的広く容認されて一語として認識されている可能性が高いことを意味する。そこで、見出し語数が世界で最も多いと

される二つの英語辞典 (*Oxford English Dictionary*(2nd ed.)・*Webster's Third New International Dictionary of English*) と、英和辞典で最も見出し語数が多い『ランダムハウス英和辞典』・『ジーニアス英和辞典』の CD-ROM 版を利用して調査を行った。これら 4 冊の辞典の概要は、表 2 に示す通りである。

表 2. 二大英語辞典と二大英和辞典

辞書名	OED 2 <sup>nd</sup> ed.	Webster's	ランダムハウス英和	ジーニアス英和
版 出版年	第 2 版 (1989 年) Addition Series vols. 1-3 (1993, 1997 年)	第 3 版 (2001 年)	第 2 版 (1993 年)	第 2 版 (2001 年)
CD-ROM	CD-ROM ver.4 (2009 年)	CD-ROM ver.3 (2003 年)	CD-ROM ver.1.50 (2002 年)	CD-ROM (2002 年)
見出し語	約 50 万語	47 万 6 千語	34 万 5 千語	25 万 5 千語
特徴	20 巻にも及ぶ世界 で最も権威があると 称される英語辞典	アメリカ人の価値観が反映	ランダムハウス英語辞典 (米) の日本語版；米国版にない見出し語 3 万語義 5 万を追加	2 千万語のコーパスを構築して編集

Webster's とランダムハウスはアメリカ英語辞典であり、OED はイギリス英語をより反映している。ジーニアスは日本人編纂者による辞典である。ランダムハウス英和辞典やジーニアス英和辞典は現在殆どの電子辞書に収録されており、認知度は極めて高い。

### 3. コーパス検索結果

#### 3.1 頻出語

多重複合形容詞の具体例を BNC-BYU と COCA で抽出し、このうち上位およそ 30 種類までを次の表 3 に示した。頻度は百万語あたりに換算した数値であり、ハイライトしてある項目は両コーパスに共通した項目である。

表 3 の通り、両コーパスで出現頻度が圧倒的に高い複合形容詞は、任意の 2 つの数および数を表す単語に *-year-old* が続いたもので、人・生物の年齢や物事の歴史を表すのに用いられている。次に出現頻度の高いものは、*state-of-the-art* (最新の) である。同様の意味を持つ *up-to-the-minute* も両コーパスで上位となっている。この他にも、程度が極端であったり特別であったりすることを表す複合形容詞が上位に多く含まれることがわかる。「最高の」という意味合いを持つもの (*top-of-the-range*, *top-of-the-line*, *once-in-a-life-time*, *man-of-the-match*, *top-of-the-table*) や、「並外れた」という意味合いを持つもの (*out-of-the-way* (並外れた)、*dyed-in-the-wool* (徹底的な)、*bottom-of-the-table*) などがこの例である。

表 3. 出現回数上位 30 種類の多重複合形容詞

BNC		頻度
	*-*-year-old	2.60
1	state-of-the-art	1.61
2	first-past-the-post	0.59
3	top-of-the-range	0.55
4	up-to-the-minute	0.51
5	run-of-the-mill	0.50
6	middle-of-the-road	0.42
7	turn-of-the-century	0.35
8	out-of-the-way	0.32
9	once-in-a-lifetime	0.25
11	pay-as-you-go	0.23
12	man-of-the-match	0.20
13	dyed-in-the-wool	0.19
14	bottom-of-the-table	0.13
15	hole-in-the-wall	0.13
16	out-of-the-money	0.13
17	top-of-the-line	0.13
20	24-hour-a-day	0.10
21	spur-of-the-moment	0.10
22	top-of-the-table	0.09
25	live-and-let-live	0.08
26	never-to-be-forgotten	0.08
27	rat-1/c-myc-er	0.08
28	rat-1/c-myc-er/bcl-2	0.08
32	fly-on-the-wall	0.06
33	melt-in-the-mouth	0.06
34	middle-of-the-range	0.06
35	seven-day-a-week	0.06
36	three-and-a-half-year	0.06
COCA		頻度
	*-*-year-old	7.41
1	state-of-the-art	4.33
2	turn-of-the-century	1.54
3	top-of-the-line	1.03
4	once-in-a-lifetime	0.88
5	out-of-the-way	0.66
6	run-of-the-mill	0.63
7	one-size-fits-all	0.59
8	up-to-the-minute	0.48
9	middle-of-the-road	0.39
10	pay-as-you-go	0.35
11	glow-in-the-dark	0.33
13	spur-of-the-moment	0.27
14	get-out-the-vote	0.25
16	fill-in-the-blank	0.21
17	red-white-and-blue	0.21
18	one-of-a-kind	0.20
19	24-hour-a-day	0.20
21	dyed-in-the-wool	0.18
25	end-of-the-year	0.16
26	hole-in-the-wall	0.15
30	son-of-a-bitch	0.15
31	pie-in-the-sky	0.14
32	out-of-the-box	0.14
34	middle-of-the-night	0.13
35	friend-of-the-court	0.12
36	out-of-the-ordinary	0.11
41	back-to-the-land	0.10
42	live-and-let-live	0.10
43	back-of-the-envelope	0.10

注：\*-\*-year-old の \* は数字。順位番号の抜けている箇所は \*-\*-year-old に該当。

ハイライトは両コーパスの共通の項目を示す。

多重複合形容詞の頻度に着目すると、COCA における頻度が BNC-BYU の平均 2 倍程度の高い頻度になっている。これは、アメリカ英語では多重複合形容詞がより多いと考ええるより、時代の変化に伴う多重複合形容詞の増加に起因すると考えた方が適切である。特に 1990 年代後半から全体的に多重複合形容詞は増加傾向にあるので、COCA のデータが BNC-BYU より新しいことが要因であると考えるのが妥当であろう。

次に、BNC-BYU と COCA において、共通して高頻度で現れるものと、どちらか片方だけに特徴的に出現しているものについて見てみよう。表 4 は、それぞれの多重複合形容詞の例とその意味を日本語で示したものである。

表 4. BNC-BYU と COCA で見られる共通語と特徴語

共通		BNC-BYU のみ	
dyed-in-the-wool	生粋の, 徹底した	first-past-the-post	小選挙区の
hole-in-the-wall	狭苦しい, ちっぽけな	top-of-the-range	トップ商品の, 最高級の
live-and-let-live	お互い干渉せずに	middle-of-the-range	普通の
middle-of-the-road	政治的に中道の	man-of-the-match	最も活躍した選手 (の)
once-in-a-lifetime	人生に一度の	bottom-of-the-table	ランキング最下位の
out-of-the-way	道を外れた, 並外れた	top-of-the-table	ランキング首位の
pay-as-you-go	都度払いの	COCA のみ	
run-of-the-mill	ありふれた, 平凡な	back-to-the-land	大地へ回帰する
spur-of-the-moment	時の弾みの, とっさの	fill-in-the-blank	空所補充式の
state-of-the-art	最先端の	friend-of-the-court	法廷助言者の
top-of-the-line	トップ商品の, 最高級の	get-out-the-vote	投票推進運動の
turn-of-the-century	(20) 世紀末前後の	one-of-a-kind	唯一の, 独特な
up-to-the-minute	最新の, 情報通の	one-size-fits-all	フリーサイズの, 万能な
24-hour-a-day	1 日 24 時間の	out-of-the-box	独創的な, 全て同梱の

まず、両コーパスに共通する多重複合形容詞を見てみよう。この半数以上がいわゆるイデオムと称される文字通りの単語の意味の総計では解釈が得られない比喩的な意味を持つものとなっている。言い換えれば、意味的に不透明なものが多い。例えば、dyed-in-the-wool は、「羊毛」や「染める」といった文字通りの意味ではなく「生粋の・徹底した」という比喩的な意味を表す形容詞となっている。

一方で、全く意味的に透明なものもあり、top-of-the-line や 24-hour-a-day など、日常生活に頻繁に使われる便利な表現として多重複合形容詞が利用されていることもわかる。

BNC-BYU だけに頻繁に現れたものを見てみよう。頻繁に現れる first-past-the-post (小選挙区の) は、イギリスの選挙制度の一つである。また、top-of-the-range や middle-of-the-range では、range (範囲) という単語がイギリスでは頻繁に使われる単語であるが、アメリカでは line という単語が使用されることが多い。

また、man-of-the-match (最優秀選手の), bottom-of-the-table (最下位の), top-of-the-table (首位の) は全てサッカーの試合の報道で使われる用語である。サッカー好きのお国ならではである。

次に COCA にのみ頻繁に現れる特徴語を見てみよう。「大地へ回帰する」という意味

を持つ back-to-the-land は movement という名詞を修飾して「帰農運動」の意味を表す。これは、1960 年代から 70 年代にアメリカ北部で流行した都会から農村へ戻って小規模農業を営むことであり、現在でも一つの理想的な生活様式としてとらえられている。

法律用語である friend-of-the-court は brief を修飾して「法廷助言者の意見書」という句で頻繁に現れる。この語の語源は amicus curiae (アミカス・キュリエ) であり、それを英語に訳したものが friend of the court である。事件の処理について判事に助言する者のことである。アメリカの司法制度では馴染みのあるものである。実際の例を以下の (1) に挙げておく。

- (1) His office would be filing a friend-of-the-court brief to urge the judge to fully review the affair allegations. (COCA: 2008 NEWS CSMonitor)

同様に、アメリカで盛んな政治運動の一つである get-out-the-vote は、有権者を選挙会場に行かせて投票してもらおうとする運動のことで、effort, drive, activity といった名詞を修飾して「投票推進運動」という意味になる。具体例として (2) を挙げておく。

- (2) Democrats have long had an elaborate get-out-the-vote effort here. (COCA: 2010 NEWS New York Times)

さらに、「他にはない」、あるいは「万能な」という意味の「特別さ」を強調する形容詞 one-of-a-kind (唯一の), out-of-the-box (独創的な), one-size-fits-all (万能な) が COCA の特徴語として挙げることができるが、これらは BNC-BYU では全くあるいは 1-2 回しか登場しない。特に、one-size-fits-all は 2000 年以降徐々に増加し続けており、その例を (3) に示しておく。

- (3) There are no one-size-fits-all strategies for home buying--there are too many variables. (COCA: 2000 Magazine MONEY)

両コーパスの特徴語は、全般的にはやはりそれぞれの国の社会・文化を反映したものが多いといえよう。

### 3.2 ジャンル

次に、多重複合形容詞の出現分布をテキストのジャンル別に見ることにする。BNC-BYU の書き言葉のデータは、学術文献 (academic)・非学術文献 (non-academic)・フィ

クション (fiction)・雑誌 (magazines)・その他 (miscellaneous) (広告、パンフレットなど)・新聞 (newspapers) の6つのジャンルに分類されている。一方 COCA は、BNC より簡略化されて、学術文献 (academic)・フィクション (fiction)・雑誌 (magazines)・新聞 (newspapers) の4つのジャンルを設定している。したがって、両コーパスに共通する4つのジャンルに渡って、多重複合形容詞の出現頻度を調査した。各ジャンルのデータのサイズが異なり、出現した延べ語数では比較できないため、100万語あたりに換算した多重複合形容詞の出現頻度を図1に表した。

図1. テキストジャンル別の多重複合形容詞の出現頻度 (百万語あたり)

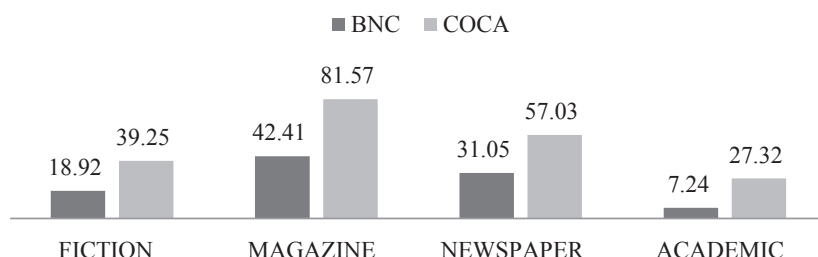


図1から、どちらの地域の英語であっても、多重複合形容詞が最も多く出現するのは「雑誌」であり、次いで「新聞」であることがわかる。「フィクション」では少なくなっており、雑誌の半分位の頻度で多重複合形容詞が出現している。「学術雑誌」では多重複合形容詞は最低頻度でしか現れない。雑誌や新聞は、限られた紙面の中で読者の関心を惹きつけなければならず、「程度を強調して際立たせる」意味を表す、「語数を節約できる」多重複合形容詞が有効に使用されていると考えることができよう。

さらに、具体的な例を個別に見てみよう。「新聞」で多く特に見られる複合形容詞は first-past-the-post, man-of-the-match, top/bottom-of-the-table (BNC-BYU) であり、政治やサッカーの報道の文面中に現れる。COCA では、friend-of-the-court は新聞記事の訴訟や事件の報道記事で現れる。「雑誌」に多いものは、state-of-the-art, up-to-the-minute, top-of-the-line, turn-of-the-century (両コーパス), top-of-the-range (BNC-BYU), one-of-a-kind, one-size-fits-all, out-of-the-box (COCA) などが挙げられる。これらは全て、商品などの宣伝で卓越性を強調するための形容詞として使用されていることは明らかである。「学術雑誌」では特に選挙制度としての first-past-the-post (BNC-BYU) や、アンケートやテスト・記入用紙の形式である fill-in-the-blank (COCA) が際立って多く現れている。

#### 4. 英語辞典での見出し語と記述

本節では、第2節で紹介した4種類の英語辞典において、多重複合形容詞がどのように記載されているかを見て行く。次の表5は BNC-BYU で高頻度に現れたもの（ハイラ



イトされているものは COCA でも頻出) についてその記載状況をまとめたものである。

表5において、すべての辞典で記載のない×で示されたものは、top-of-the-range, man-of-the-match, top/bottom-of-the-table である。これらは BNC-BYU の特徴語であり、COCA にも見られない語である。このうちの3つはサッカーの試合の報道に使用されるものである。また、全ての語の意味は透明で比喩的ではない点も重要である。

逆に、全ての辞典に見出し語として採用されているものは middle-of-the-road, out-of-the-way, spur-of-the-moment で、いずれも COCA でも頻出語で、比喩的な意味で使われている。

また、24-hour-a-day と \*-\*-year-old は、24 や year が見出し語となり、その欄に用例としてハイフン付きで多重複合形容詞の記載が見られる。これらは意味は明確であるが、日常生活で使用頻度が高いために記述がなされたと考えられる。

表5. コーパス内頻出多重複合形容詞の辞典での記載状況

BNC 頻出 多重複合形容詞		OED	Websters	ランダムハウス	ジーニアス
1	*-*-year-old	×	○n	year△n	year△n
2	state-of-the-art	state▲	◎	◎	◎
3	first-past-the-post	post▲	×	◎	◎
4	top-of-the-range	×	×	×	×
5	up-to-the-minute	○	◎	◎	◎
6	run-of-the-mill	run▲	◎	◎	◎
7	middle-of-the-road	◎	◎	◎	◎
8	turn-of-the-century	turn▲	×	×	turn▲
9	out-of-the-way	◎	◎	◎	◎
10	once-in-a-lifetime	once▲	×	×	◎
11	pay-as-you-go	pay-△	△	◎	◎
12	man-of-the-match	×	×	×	×
13	dyed-in-the-wool	dye▲	◎	◎	◎
14	bottom-of-the-table	×	×	×	×
15	hole-in-the-wall	hole△n	◎n	◎	◎n
16	out-of-the-money	×	out-of-△	◎	money△
17	top-of-the-line	top△	×	◎	◎
18	24-hour-a-day	twenty-four-hour △	×	twenty-four△	×
19	spur-of-the-moment	◎	◎	◎	◎
20	top-of-the-table	×	×	×	×
21	live-and-let-live	◎	×	live▲	live▲

注：ハイライト項目は COCA でも頻出語； ◎ハイフン付で見出し語 ○ハイフンなしで見出し語 △左の見出し語でハイフン付用例あり ▲左の見出し語でハイフンなし用例あり ×見出し語も用例もなし n は名詞として記載有



全般的に、OED では多重複合形容詞を見出し語として採用していない傾向がある。この辞典では多重複合形容詞は、構成要素となっている 1 単語を見出し語とし、その説明や用例の欄に補助的に掲載されている。なお、OED では、見出し語に採用した多重複合形容詞については、その項目記述の中に派生語を含めている。例えば、middle-of-the-roader, out-of-the-wayness, up-to-the-minutely, up-to-the-minuteness を掲載している。

次に、Webster's に見出し語として記載のある多重複合形容詞を、CD-ROM を使用して全て抽出した。その結果と、他の 3 つの辞典での記述状況を比較して表 6 にまとめた。

この辞典には 22 の多重複合形容詞が見出し語になっている。そのうちの 7 つ (dyed-in-the-wool, middle-of-the-road, out-of-the-way, run-of-the-mill, spur-of-the-moment, up-to-the-minute, state-of-the-art) は、両コーパスで高頻度語であった。

しかし、この辞典にだけ記載があるもの (blood-and-feather-dressed, story-and-a-half,

表 6. Webster's における見出し語と他の辞典での記載状況

Webster's	OED	ランダムハウス	ジーニアス
blood-and-feather-dressed	×	×	×
blown-in-the-bottle	×	◎	×
bred-in-the-bone	bone▲	◎	◎
catch-as-catch-can	catch▲	◎	◎
down-in-the-mouth	×	◎	×
dyed-in-the-wool	wool▲	◎	◎
go-as-you-please	go△	◎	◎
knock-down-and-drag-out	knock-down△	knock-down-drag-out ◎	knock-down-drag-out ◎
middle-of-the-road	◎	◎	◎
on-again-off-again	×	on-again, off-again ◎	on-again, off-again ◎
out-of-the-way	◎	◎	◎
run-of-the-mill	run▲	◎	◎
seat-of-the-pants	pants△	◎	◎
spur-of-the-moment	◎	◎	◎
story-and-a-half	×	×	×
straight-from-the-shoulder	shoulder▲	◎	◎
Sunday-go-to-meeting	×	◎	◎
touch-me-not-ish	touch-me-not(n) △	touch-me-not(n) ×	touch-me-not(n) ×
un-come-at-able	uncome-at-able ◎	◎	◎
up-to-the-minute	○	◎	◎
walk-in-walk-out	×	×	×
state-of-the-art	state△	◎	◎

注：ハイライト項目は両コーパスで頻出語；◎ハイフン付で見出し語 ○ハイフンなしで見出し語 △左の見出し語でハイフン付用例あり ▲左の見出し語でハイフンなし用例あり ×見出し語も用例もなし n は名詞として記載有

walk-in-walk-out) もあり、アメリカ英語を代表する辞典としての個性が窺える。

さらに、コーパスの分析では頻出語と認定されなくても、辞典に見出し語としてあるいは用例として記載のあるものが多くあることが分かる。次の8つ (bred-in-the-bone, catch-as-catch-can, go-as-you-please, knock-down-and-drag-out, seat-of-the-pants, straight-from-the-shoulder, touch-me-not-ish, un-come-at-able) はランダムハウスとジーニアスでは見出し語として、OED には構成要素の1単語が見出し語の用例の中に採用されている。ここでもやはり、意味的には不透明なものが多い。また、Webster's はランダムハウスと記述状況が似通っている。

## 5. まとめ

本稿では、イギリス英語とアメリカ英語のコーパスを使用して、高頻度で出現する多重複合形容詞とその意味を分析し、一方の地域の英語にしか現れなかった特徴語を明らかにした。また、多重複合形容詞が頻繁に使用されるジャンルや、特定のジャンルに高頻度で現れる語を抽出した。また、大規模な英英辞典2冊と英和辞典2冊で、多重複合形容詞がどのように記載されているかを比較検討した。多重複合形容詞の増加傾向は、言語表現の簡素化が進んでいる現実を如実に反映していると思われる。今後の研究課題として、多重複合形容詞の出現頻度の変化を年代ごとに分析して、この傾向を証明したい。

## 参考文献

- Bauer, Laurie (1983) *English Word-formation*, Cambridge University Press: Cambridge.  
*Oxford English Dictionary*, 2nd Edition, Version 4 (CD-ROM), (2009) Oxford University Press.  
*Webster's Third New International Dictionary of English*. (CD-ROM) (2003) Merriam- Webster  
『ランダムハウス英語大辞典』(CD-ROM) (2002) 小学館  
『ジーニアス英和大辞典』(CD-ROM) (2002) 大修館